

病理学

担当講座（分野）：病理学講座（病態解析学分野）

第2学年 後期

講義
後期 21.0時間

教育成果（アウトカム）

人体の正常な形態ならびに機能の知識を基盤として、さまざまな病因を学ぶことによって疾患の成り立ちと転帰の過程を分子、細胞および組織レベルで知るとともに、諸疾患の基本的特徴に基づく分類と、それぞれの概念および内容を理解することによって、医学・医療との関わりの基本を認識する。また、与えられた課題を整理することによって学修習慣を確実なものとする。
(ディプロマ・ポリシー：5、8)

事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
10月4日(水) 1限	佐藤泰生講師	病理学概論、病因論 病理学の概念と内容、疾病の原因について理解する。 病因（内因と外因）について理解する。	1. 医学における病理学の位置づけを説明できる。 2. 病理学はどんな学術分野かを説明できる。 3. 健康とはなにかを説明できる。 4. 疾病とはなにかを説明できる。 5. 内因について説明できる。 6. 外因について説明できる。 7. 医原病について説明できる。
10月11日 (水) 1限	佐藤泰生講師	先天異常と奇形 先天異常と奇形の原因ならびに成立機序を理解する。 先天異常を分類し、口腔領域の発育異常の成立機序を理解する。	1. 先天異常の原因を挙げ、遺伝的要因と環境的要因に区別できる。 2. 遺伝的要因について、染色体レベルの異常と遺伝子レベルの変異を説明できる。 3. 環境的要因の中で遺伝子に作用するものと胎児に作用するものを説明できる。 4. 奇形の成立機序を説明できる。 5. 奇形を分類し、説明できる。 6. 口腔領域の発育異常の成立機序を説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
10月18日 (水) 1 限	三上俊成准教授	循環障害 (1) 循環血液量の異常による局所的循環障害を理解する。	1. 虚血の定義、原因、結果などを説明できる。 2. 充血について、とくに炎症との関連を説明できる。 3. うっ血の定義、原因、転帰を説明できる。 4. 出血の原因と転帰、止血機構などを説明できる。
10月25日 (水) 1 限	三上俊成准教授	循環障害 (2) 閉塞性の局所的循環障害を理解する。 全身性の循環障害を臨床との関わりから理解する。	1. 血栓症の定義、原因、転帰などを説明できる。 2. 塞栓症の定義、原因、転帰を説明できる。 3. 梗塞の定義、原因、転帰を説明できる。 4. 高血圧症の定義、原因、諸疾患との関連を説明できる。 5. ショックの原因と転帰を説明できる。 6. 心不全の原因を説明できる。
11月1日(水) 1 限	佐藤泰生講師	細胞傷害と物質代謝異常 (1) 種々の物質代謝障害と、それらの関連諸疾患を理解する。	1. タンパク質変性の種類と関連諸疾患を説明できる。 2. 脂肪変性と糖原変性の種類を説明できる。 3. 無機質の代謝異常の種類を説明できる。 4. 色素変性の種類と関連諸疾患を説明できる。
11月8日(水) 1 限	佐藤泰生講師	細胞傷害と物質代謝異常 (2) 萎縮、壊死、全身死について理解する。	1. 萎縮の定義と種類を説明できる。 2. 壊死の原因、種類、転帰を説明できる。 3. 全身死における死後変化を説明できる。 4. 死の判定とその問題点について考える。
11月15日 (水) 1 限	三上俊成准教授	炎 症 (1) 炎症の概念(定義、炎症細胞とメディエーター、急性炎症)を理解する。	1. 炎症の定義を説明できる。 2. 炎症の臨床的徴候について説明できる。 3. 炎症に関わる細胞とメディエーターを挙げ、その役割を説明できる。 4. 炎症を経過、組織像、発生原因から分類できる。
11月22日 (水) 1 限	三上俊成准教授	炎 症 (2) 炎症の分類とそれぞれの特徴(慢性炎症、炎症の転帰、炎症の名称と分類)を理解する。	1. 急性炎症の基本的組織変化を説明できる。 2. 滲出性炎を分類し、それらの特徴を説明できる。 3. 慢性炎症の基本的組織変化を説明できる。 4. 肉芽腫性炎の特徴を理解し、それらについて説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
11月29日 (水) 1 限	三上俊成准教授	免疫異常による疾患 免疫の概念、免疫反応による組織傷害、免疫の異常によって起こる疾患を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫の概念を説明できる。 2. 免疫反応による組織傷害（アレルギー）を説明できる。 3. 自己免疫疾患を挙げ、それらについて病理学的に説明できる。 4. 免疫不全症候群を説明できる。 5. 移植と拒絶反応について説明できる。
12月6日(水) 1 限	佐藤泰生講師	増殖と修復（1） 病的侵襲に対する生体の能動的な変化を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞周期を各期に分けることができる。 2. 細胞の増殖を制御する因子を挙げることができる。 3. 肥大と増生（過形成）を説明し、具体例を挙げることができる。 4. 化生を説明し、具体例を挙げることができる。 5. 再生を説明し、具体例を挙げることができる。
12月13日 (水) 1 限	佐藤泰生講師	増殖と修復（2） 組織欠損の修復や異物の侵入に対する生体の反応を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肉芽組織の機能と構成成分を説明できる。 2. 皮膚ならびに粘膜の創傷治癒を説明できる。 3. 骨折の治癒を説明できる。 4. 生体内異物の処理を説明できる。
12月20日 (水) 1 限	三上俊成准教授	腫瘍総論（1） 腫瘍の概念（定義、形態、分類）を理解し、反応性増殖との違いを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍の定義を説明できる。 2. 腫瘍性増殖と反応性増殖との基本的な違いを説明できる。 3. 腫瘍の形態と組織発生を説明できる。 4. 良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴を説明できる。 5. 腫瘍細胞の分化度と異型性を説明できる。
1月10日(水) 1 限	三上俊成准教授	腫瘍総論（2） 腫瘍発生の原因、進展機序、臨床病理学的特徴を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍の発育・進展様式を説明できる。 2. 腫瘍の発生要因を説明できる。 3. 多段階発癌機構を説明できる。 4. 癌遺伝子と癌抑制遺伝子を説明できる。 5. 腫瘍の臨床病理学的特徴を説明できる。
1月24日(水) 1 限	三上俊成准教授 佐藤泰生講師	病理総論の要点 病理学総論の重要事項を整理し理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学総論で学んだ用語の定義や重要事項について説明できる。

教科書・参考書（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書名	著者氏名	発行所	発行年
教	スタンダード病理学改訂新版	下野正基編著	学建書院	2005年

成績評価方法

定期試験 100%

特記事項・その他

毎回講義の初めに、前回の講義の内容の重要項目について復習を行う。 最後の講義を「病理総論の要点」として各講義内容の重要項目を総復習する。

授業に使用する機械・器具と使用目的

[病理学]

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
カラー複合機・ imageRUNNER ADVANCE	C2218F-V 18PPM	1	基礎実習・研究用機器	講義配布資料作成
デスクトップパソコン・ Mate J 一式	MJ28E/L-J SPL	1	基礎実習・研究用機器	講義配布資料作成